

科目名称：	総合教養演習Ⅳ	
担当者名：	能 雄司	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>「総合教養演習Ⅱ」では、「日本国憲法」及び「国内政治」「国際政治」関連を中心とした「社会科目」の知識の修得、及び英語の文章理解問題、そして、文系を志望してきた学生にとって特に苦手科目といえる「数的推理」の基本的形式の問題や「SPI2」に取り組んできた。学生にとっては初めての問題形式が多いため、解法の理解に多くの時間を費やした。「総合教養演習Ⅳ」では、1年次で身に付けた基礎力を更にレベルアップするために、反復して多くの問題を解き理解を深め、応用力を身につけることを目指す。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1年次で身につけた数多くのジャンルの問題に長時間集中して取り組む模擬試験にも何度か体験させることとする。更に、「一般知能」のジャンルであるが1年次には時間の関係で触れることができなかった「電気回路問題」や「斗分け・天秤算」「原価・定価・割引・利益」等にも取り組み、知能試験への対応力の幅を広げる。更に、模擬試験の解答をする時間の最初には、一次試験合格者に課される「適性試験」に取り組む体験をすることで、来るべき公務員試験及び企業の採用試験における「教養試験」に如何なく実力を発揮できるよう、自信を持たせることを目的とする。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	0	85	5	10	100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
毎回の授業課題(宿題)の取り組み	毎回総てをやってきた	1～2回抜けた	3回～5回抜けた	6回以上抜けた
毎回の授業への取り組み	毎回真剣に取り組み、説明をよく聞き、素早く理解する。	真剣な取り組み姿勢を感じる場面があり、努力してついで来ている。	特別な積極性は見られないが真面目に取り組んでいる。	時々睡魔に襲われるなどやや集中力に欠ける場面がある。
資料等配布物の整理・記入	要点を配布資料に色分けして記入し配布物はファイル化してある。	配布された資料に要点をメモ書きしてファイル化されている。	配布物はファイル化されてはいないが、ほぼ保管されている。	配布資料は一応保管されているが容易に取り出せない状態である。
(毎時)小テストの結果	95%以上	75～94%	50～74%	49%以下

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「総合教養演習Ⅳ」の体系の理解 (社会テスト第14回-世界の思想家・哲学者・名教・ディスカッション)	事前に配布してある「春休みの課題」に、すべてしっかり取り組んでおく。	60分
第2回 テキスト問題「問10,問12,問14」【社会テスト第15回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	一般常識資料「社会全般・雑学」の資料を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第3回 「斗分け・天秤算問題」【英語テスト第3回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	自分の持っている英語の参考書などを、しっかり見直しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第4回 SPI2「電気回路問題」【社会テスト第17回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「現代社会・芸術・科学」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第5回 「原価・定価・割引・利益Ⅰ」【社会テスト第18回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	「原価・定価・利益問題」について、事前に予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第6回 「原価・定価・割引・利益Ⅱ」【社会テスト第19回】 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	前の時間の内容について復習して問題点を解決しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第7回 「指数問題解法の要点」「面積」 ⇒小グループで協力して問題を解きクリッカーで答える	「指数問題・面積」について、事前にしっかり予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む。	60分
第8回 模擬(公務員)試験(1)	1年時から取り組んできた全ジャンルの総復習と公務員試験の練習	60分
第9回 「適性試験」演習① 模擬(公務員)試験(1)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて、再度挑戦して解法を身につけておく	60分
第10回 模擬(公務員)試験(2)	これまでの「総合教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の資料すべてに目を通しておく	60分
第11回 「適性試験」演習② 模擬(公務員)試験(2)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて、再度挑戦して解法を身につけておく	60分
第12回 模擬(公務員)試験(3)	これまでの「総合教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の資料すべてに目を通しておく	60分
第13回 「適性試験」演習③ 模擬(公務員)試験(3)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて、再度挑戦して解法を身につけておく	60分
第14回 模擬(公務員)試験(4)	これまでの「総合教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の資料すべてに目を通しておく	60分
第15回 「適性試験」演習④ 模擬(公務員)試験(4)の解答と解説	前回の模擬試験で自分の苦手ジャンルについて、再度挑戦して解法を身につけておく	60分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業時間内小テスト30%・模擬テスト55%、家庭学習用課題5%、 授業に対する取り組み方(貢献・積極的関与、発表)10%で評価する。		
課題に対するフィードバック		
授業内で実施した小テスト及び模擬試験は解答し、評価した後に返却する。「家庭課題」は次時に解答・解説する		
教科書・参考書		
『最新最強の地方公務員問題 14年版』成美堂出版 成美堂出版編集部 2011年発行 その他、授業時間内に演習問題や必要な資料を配布して解説する。		